

東栄の地にしみた汗忘れなん ～東栄開拓入植60周年記念祝賀会～

このほど、東栄地区が開拓入植60周年を記念し祝賀会が開催されました。

東栄地区は、昭和33年8月25日農林省から酪農畑作営農モデル地区として指定を受け、14世帯53名で入植しました。

戦後復興したとはいえ国の経済は未だ弱く、国民の食生活すら満足すべき状態ではなく電気や道路もない土地に酪農畜産の供給に対し強い要請を受け、高い理想と希望を抱き開拓に汗を流しました。

時代の流れと共に撤退や離農した方々もおりますが、親から子へ、子から孫へと大地が引き継がれ、また、酪農から畑作への転換など厳しい状況を克服し、現在は8世帯が「東に栄える」大地を一生懸命守っております。

今後ますますのご発展とご活躍を祈っております。



入植記念碑(平成16年8月建立)



越善村長祝辞

東栄開拓入植60周年記念祝賀会



東栄の方々と60周年記念写真

戦後73年、戦争の悲しみを忘れず、恒久平和を願う ～平成30年度東通村戦没者追悼式～

終戦から73年目を迎え、第65回東通村戦没者追悼式が9月3日、村体育館山手に建立されている戦没者慰霊碑前で厳かに行われました。

追悼式は先の大戦で犠牲となった、二百余柱の戦死者の英霊を追悼するとともに、併せて、世界の恒久平和を願い行っているものです。

式典では、参列者全員で黙祷を捧げた後、越善靖夫村長、丹内俊範村議会議長の追悼のことが、小林義明村遺族会長が、「戦争によって肉親を失った遺族の方々の心には、消えることのない深い傷跡が残り続けます。」

今を生きる私たちは、過去の悲惨な戦争から学んだ教訓と平和の尊さを次の世代に伝え、この悲しい歴史を二度と繰り返さないことを誓い申し上げます」と追悼のことばを述べました。

このあと、参列者一人一人が二百余柱の英霊に白菊の献花を行い戦没者の冥福を祈り、平和を誓いました。



小林会長の献花



丹内村議会議長の追悼のことば



越善村長の追悼のことば